

2024年3月期 第1四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2023年8月7日

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。



ウシオ電機、経営統括本部長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、2024年3月期 第1四半期決算の内容をご説明致します。

それでは、スライド2ページをご覧ください。

1. 2023年度 1 Q実績は **減収減益も、計画通り推移**
2. 2023年度 通期業績予想は **変更なし**
3. 2023年度より **報告セグメントを変更**

本日、主に記載の3つについてご説明致します。

第1四半期の業績は、半導体及びフラットパネルディスプレイの市況悪化の影響を受け、前年同期比で減収減益となりましたが、その影響は既に織り込み済みであり、通期業績予想に対しては、計画通りに推移しています。

従って、2023年度の通期業績予想の変更はございません。

また、今期より報告セグメントを変更しております。

続いて、第1四半期の業績についてご説明致します。スライド4ページをご覧ください。

I. 2023年度 1 Q業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

III. 参考資料

売上高

392億円

前年同期比 : 4億円減 (▲1.1%)

- 半導体及びFPDの市況悪化により、Industrial Process事業は減収
- 映像関連機器のサプライチェーン・マネジメント(SCM)改革進展、及び部材不足解消と円安効果で、Visual Imaging事業は増収

EBITDA*

39億円

前年同期比 : 23億円減 (▲37.4%)

- 減収による減益
- 将来に向けた戦略投資(R&D・人財投資等)を拡大

親会社株主に帰属する
四半期純利益

17億円

前年同期比 : 20億円減 (▲53.5%)

- 【営業外収支】為替差損益 ▲0億円(2022年度 1 Q : 10億円)

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

4

第1四半期の業績サマリーです。

売上高は、1.1%減収の392億円となりました。

前期は、半導体や液晶パネルの需要が高水準に推移しましたが、その後、市況が悪化し、設備投資の後ろ倒しの傾向が強まり、稼働も低下し推移したことから、露光用ランプが減収。

また、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置の販売は、市況の変化により、一時的な調整局面にあり、加えて、今期は売上が下期に偏っている影響もあり、インダストリアルプロセス事業で減収となりました。

一方で、前期に部材不足の影響を受けた映像関連機器は回復傾向にあり、また、進めておりますSCM改革が順調に進んでいること、加えて円安効果も加わり、ビジュアルイメージング事業で増収となりました。

EBITDAは、37.4%減益の39億円となりました。

インダストリアルプロセス事業の減収に加え、将来に向けたR&Dや人財投資などの戦略投資を拡大させたことにより減益となりました。

四半期純利益は、営業利益の減益に加え、前期に営業外収支で計上した為替差益10億円が今期は発生していないことで、53.5%減益の17億円となりました。

続いて、EBITDAの増減内容を、ステップチャートでご説明致しますので、スライド6ページをご覧ください。

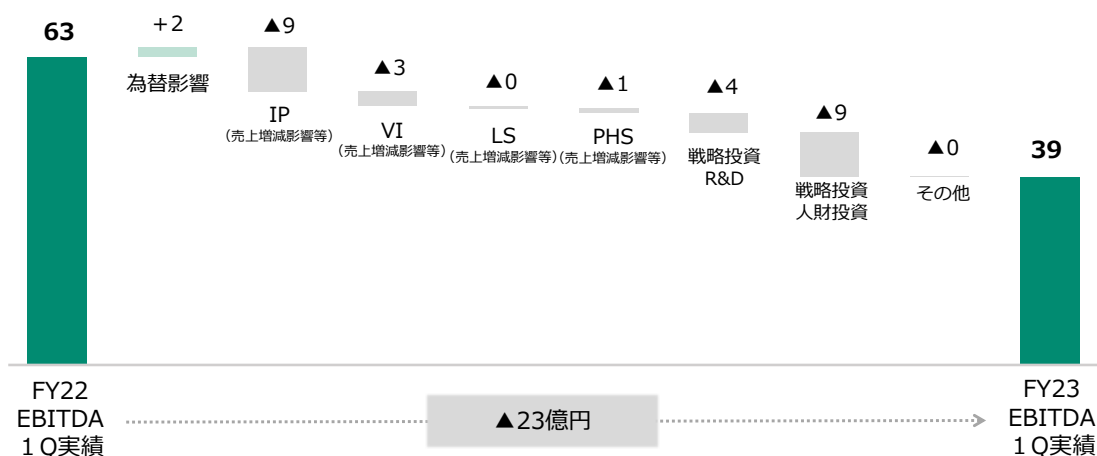
2023年度 1 Q : 財務ハイライト



| 単位：億円 | | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|----------------------|-----|-----------------|-----------------|--------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | | 397 | 392 | ▲4 | ▲1.1% |
| 営業利益*1 | | 44 | 20 | ▲24 | ▲54.1% |
| 営業利益率*1 | | 11.3% | 5.2% | ▲6.0P | - |
| EBITDA*2 | | 63 | 39 | ▲23 | ▲37.4% |
| EBITDAマージン | | 15.9% | 10.1% | ▲5.8P | - |
| 経常利益 | | 62 | 28 | ▲34 | ▲55.1% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | | 38 | 17 | ▲20 | ▲53.5% |
| EPS（円） | | 32.18 | 15.36 | ▲16.82 | ▲52.3% |
| 為替レート（円） | USD | 126 | 136 | +10 | - |
| | EUR | 137 | 148 | +11 | - |

*1 2023年度 1Qで軽微な新規のれん償却を計上 調整後営業利益：20億円
*2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

2023年度 1 Q : EBITDA増減分析（前年同期比）



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

6

EBITDAの23億円減益の主な内訳についてご説明致します。

まず、為替が円安で推移したことにより2億円の増益。

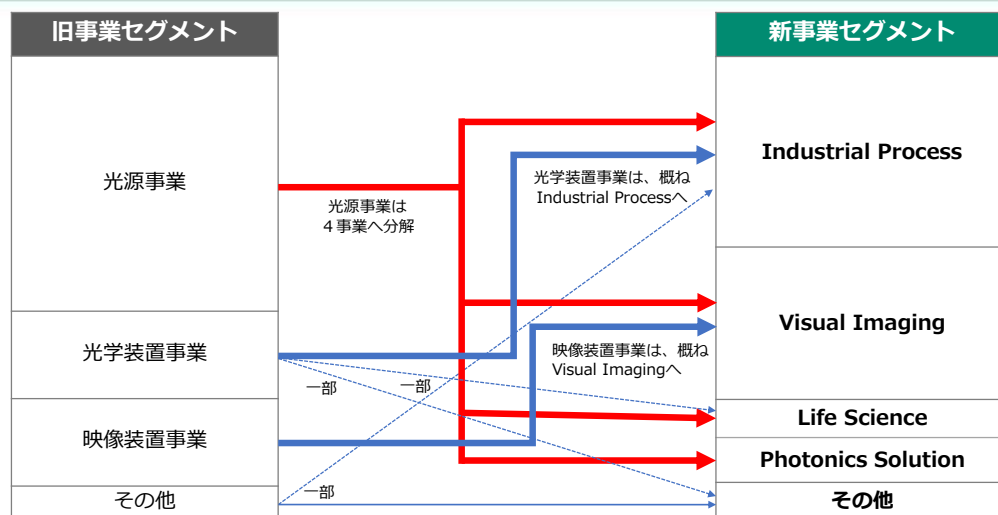
事業面では、インダストリアルプロセス事業において、半導体等の市況の悪化を受け、総利益ベースで9億円の減益。

事業面以外では、将来に向けたR&Dや人財投資などの戦略投資を合計で13億円拡大させました。

なお、人財投資9億円には、従業員向け株式付与制度導入に伴うものや、グループ会社での買収案件に関する人員増などが含まれています。

続いて、セグメント別の業績をご説明致します。
スライド7ページをご覧ください。

参考：報告セグメント区分変更



サブセグメント別の新旧関連図はスライド25～26を参照ください

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved

7

セグメント別の業績をご説明する前に、今期より報告セグメントを変更していますので、ご確認いただければと思います。

旧セグメントとの関連は、ご覧の通りです。

また、サブセグメントの新旧の関連性については、スライド25と26に掲載していますので、後程、ご確認いただければと思います。

それでは、次ページより、新しい報告セグメントで、ご説明致します。

スライド8ページをご覧ください。

2023年度 1 Q : セグメント別業績



| 単位：億円 | | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|--------------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| Industrial Process | 売上高 | 198 | 174 | ▲23 | ▲12.1% |
| | 営業利益 (営業利益率) | 39 (19.8%) | 22 (12.9%) | ▲16 (▲7.0P) | ▲42.9% |
| Visual Imaging | 売上高 | 155 | 176 | +20 | +13.2% |
| | 営業利益 (営業利益率) | 12 (7.8%) | 6 (3.5%) | ▲5 (▲4.2P) | ▲48.4% |
| Life Science | 売上高 | 14 | 13 | ▲0 | ▲4.0% |
| | 営業利益 (営業利益率) | ▲6 (▲47.5%) | ▲4 (▲32.7%) | +2 (+14.7P) | - |
| Photonics Solution | 売上高 | 23 | 25 | +1 | +6.6% |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1 (6.1%) | ▲3 (▲12.9%) | ▲4 (▲19.0P) | - |
| その他 | 売上高 | 4 | 2 | ▲2 | ▲42.6% |
| | 営業利益 (営業利益率) | ▲1 (▲26.5%) | ▲0 (▲22.9%) | +0 (+3.6P) | - |
| 連結合計 | 売上高 | 397 | 392 | ▲4 | ▲1.1% |
| | 営業利益 (営業利益率) | 44 (11.3%) | 20 (5.2%) | ▲24 (▲6.0P) | ▲54.1% |

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 8

こちらが、セグメント別の結果となります。

次ページ以降で、詳しい内容についてご説明致します。

2023年度 1 Q : Industrial Process事業



| 単位：億円 | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|-------------|-----------------|-----------------|-------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 198 | 174 | ▲23 | ▲12.1% |
| 営業利益 | 39 | 22 | ▲16 | ▲42.9% |
| 営業利益率 | 19.8% | 12.9% | ▲7.0P | — |
| サブセグメント別売上高 | | | | |
| 露光用ランプ | 40 | 33 | ▲7 | ▲17.8% |
| OA用ランプ | 13 | 13 | +0 | +1.1% |
| 光学機器用ランプ | 32 | 27 | ▲4 | ▲15.2% |
| 光源事業合計 | 86 | 74 | ▲12 | ▲13.9% |
| 露光装置 | 69 | 54 | ▲14 | ▲21.7% |
| 光学装置その他 | 43 | 46 | +3 | +7.1% |
| 光学装置事業合計 | 112 | 100 | ▲11 | ▲10.6% |

■売上高：前年同期比 23億円減収

- 露光装置の販売が、最終需要の減速や今期の検収タイミングの下期偏重による影響で減少
- 液晶パネル向けで巣ごもり需要が一巡及び半導体市況の悪化に伴い露光用ランプの販売が減少
- EUVマスク検査用光源は、前期検収案件のメンテナンス収入が増加

■営業利益：前年同期比 16億円減益

- EUVマスク検査用光源などの将来に向けた戦略投資(R&D等)の拡大
- 露光用ランプや露光装置などの付加価値の高い製品販売が減少したことで利益率が低下

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 9

インダストリアルプロセス事業は前年同期比で減収減益となりました。
売上高は、12.1%減収の174億円。営業利益は42.9%減益の22億円です。

減収の主な要因ですが、半導体市場全般で、スマートフォンやパソコンなどの最終需要に減速感があり、低調な市況が継続。また、半導体及び液晶パネルの稼働は前期上期まで高水準でしたが、その後、市況の悪化に伴い、稼働は低調に推移しています。
そのため、露光用ランプの販売は減少。また、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置の販売も一時調整局面にあり、加えて、今期の売上が下期偏重のため、第1四半期の販売は、前年同期比で減少しました。

一方で、EUVマスク検査用光源は、前期に検収した案件のメンテナンスが増加し、かつ稼働は高水準を維持していることから、メンテナンス収入が増加しました。

続いて、営業利益の減益要因ですが、減収に加え、EUVや最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置の将来成長に対し開発投資を拡大したこと。また、露光用ランプや露光装置などの付加価値の高い製品販売が減少したことで、利益率が低下しました。

続いて、ビジュアルイメージング事業について、スライド10ページでご説明致します。

2023年度 1 Q : Visual Imaging事業



| 単位：億円 | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|-------------|-----------------|-----------------|-------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 155 | 176 | +20 | +13.2% |
| 営業利益 | 12 | 6 | ▲5 | ▲48.4% |
| 営業利益率 | 7.8% | 3.5% | ▲4.2P | — |
| サブセグメント別売上高 | | | | |
| プロジェクター用ランプ | 34 | 30 | ▲3 | ▲10.4% |
| 照明用ランプ | 7 | 7 | +0 | +5.9% |
| 光源事業合計 | 42 | 38 | ▲3 | ▲7.5% |
| シネマ | 46 | 67 | +20 | +44.7% |
| 一般映像 | 67 | 69 | +2 | +4.3% |
| 映像装置事業合計 | 113 | 137 | +23 | +20.9% |

■売上高：前年同期比 20億円増収

- 部材需給緩和とSCM改革の進展、シネマ分野で映画館のプロジェクターの置き換え需要を取り込み、DCP*の販売台数が増加し増収
- 一般映像分野において、イベント等の需要が堅調に推移し、ハイエンド機種の販売割合が増加したことで増収
- 円安効果で増収

■営業利益：前年同期比 5億円減益

- 映像装置関連の部材コスト高騰により減益も、下期に向け改善の見通し
- 戦略投資(人財投資等)の拡大

*DCP：デジタルシネマプロジェクター（以降同様）

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ビジュアルイメージング事業は増収減益となりました。
売上高は、13.2%増収の176億円。営業利益は、48.4%減益の6億円です。

増収の主な要因は、デジタルシネマプロジェクターにおいて、SCM改革が進展していること、前期に受けた部材不足の影響が緩和傾向にあり、映画館での置き換え需要を取り込み販売が拡大したこと。また、一般映像分野では、イベントやアミューズメントパークなどの付加価値の高い案件を獲得していることから、ハイエンド機種の販売割合が拡大したことによります。また円安効果も出ています。

一方で、営業利益は減益となりました。

将来を見据えたソリューション体制構築に向け、人財投資を拡大させたこと。また、映像機器のプロジェクターにおいて、昨年の部材コスト高騰の影響が継続し、第1四半期もまだ利益率の低い製品が多く含まれていることから、前年同期比で、利益率が低下しました。

なお、部材コスト高騰は、部材不足の解消とともに収まり、下期には適正化されることから、利益率も改善する見込みです。

続いて、ライフサイエンス、フォトニクスソリューション事業について、スライド11ページでご説明致します。

2023年度 1 Q : Life Science事業 /Photonics Solution事業

Life Science事業

| 単位：億円 | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|-------|-----------------|-----------------|--------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 14 | 13 | ▲0 | ▲4.0% |
| 営業利益 | ▲6 | ▲4 | +2 | - |
| 営業利益率 | ▲47.5% | ▲32.7% | +14.7P | - |

■売上高：前年同期比 0億円減収

- 横ばいで推移

■営業利益：前年同期比 2億円増益

- 環境衛生向け戦略変更による販売投資の集中・抑制で増益

Photonics Solution事業

| 単位：億円 | 2022年度 1 Q実績 | 2023年度 1 Q実績 | 前年同期比 | |
|-------|-----------------|-----------------|--------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 23 | 25 | +1 | +6.6% |
| 営業利益 | 1 | ▲3 | ▲4 | - |
| 営業利益率 | 6.1% | ▲12.9% | ▲19.0P | - |

■売上高：前年同期比 1億円増収

- 顕微鏡向けレーザーモジュールで研究開発用途の販売が拡大

■営業利益：前年同期比 4億円減益

- R&D投資の戦略的拡大

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 11

ライフサイエンス事業は減収増益となりました。

売上高は、4%減収の13億円。営業利益は、2億円増益の4億円の赤字となりました。

減収の主な要因は、紫外線治療機器で、新製品投入により販売が増加したものの、固体光源化が進むナトリウムランプやCare222などの環境衛生向けランプで販売が減少したことによるものです。

一方で、営業利益の改善は、Care222などの環境衛生向け製品で、戦略変更による販売投資の選択と集中、抑制によるものです。

続いて、フォトニクスソリューション事業は、増収減益となりました。

売上高は6.6%増収の25億円、営業利益は4億円減益の3億円の赤字となりました。

増収の主な要因は、顕微鏡向けレーザーモジュールで、大学や企業での研究開発用途の販売が拡大したこと。

減益の主な要因は、フォトニクスアプリケーション拡大に向けた開発費及び人財投資の戦略的拡大によるものです。

以上が第1四半期の業績のご説明となります。

続いて、通期業績見通しについてご説明致します。

スライド13ページをご覧ください。

I. 2023年度 1 Q業績概要

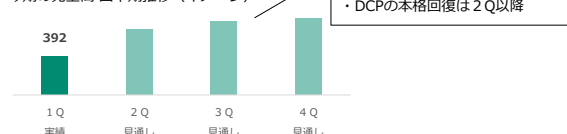
II. 2023年度 通期業績予想

III. 参考資料

■通期業績予想のポイント

- 前回予想から変更なし（セグメント別も変更なし）
- 全事業で将来に向けた戦略投資(R&D・人財投資)拡大
- 業績の回復は下期を見込む

今期の売上高 四半期推移（イメージ）



- 事業別の主な内容は以下の通り（詳細は次ページ以降）

Industrial Process事業（対前期：減収減益見込み）

→ 半導体市場を中心に不透明な景況感が継続

Visual Imaging事業（対前期：増収増益見込み）

→ SCM改革進展、部材不足の緩和と需要の拡大

Life Science事業（対前期：減収増益見込み）

→ 戦略投資の集中・抑制、前期棚卸資産評価損が発生

■通期業績予想（係数）

・売上高 : 1,880億円

・EBITDA*1 : 210億円

EBITDAマージン 11.2%

・当期純利益 : 100億円

・ROE *2 : 4.3%

・配当予想 : 年間配当50円

・為替前提 : USドル 135円

（参考）為替感応度：1円変動による影響額（通期）
対USD 売上高：約12.0億円、営業利益：約1.3億円

*1 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

*2 ROEの目標値は、新規ののれん償却を除いて算出

今期の通期業績予想について、ポイントをこちらにまとめています。

まず、通期業績予想は、前回5月11日に公表したものから変更はございません。

改めて、通期業績予想の主なポイントのみをご説明致します。

今期は、全事業で将来の成長拡大に向けた戦略投資を拡大しています。これにより、売上高の伸びに対し、利益の伸びは限定的となります。

また、今期は、下期の業績回復を見込んでおり、売上高の四半期推移では、第2四半期以降に増加し、合わせて利益率も下期に向け改善が進む見込みです。

これは、インダストリアルプロセス事業の露光装置の売上が下期に偏っており、販売台数の3分の2が下期となっていること。また、ビジュアルイメージング事業のシネマ向けプロジェクターなどの部材不足が下期にかけて解消し、合わせて高騰していた部材コストの改善も進むためです。

セグメント別については、この後のページでご説明致します。

スライド14ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：財務ハイライト

| 単位：億円 | | 2022年度 実績 | 2023年度 予想 | 前期比 | | 通期予想に対する 1 Q進捗率 |
|---------------------|-----|--------------|--------------|--------|--------|--------------------|
| | | | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | | 1,750 | 1,880 | +129 | +7.4% | 20.9% |
| 営業利益*1 | | 158 | 125 | ▲33 | ▲21.2% | 16.4% |
| 営業利益率*1 | | 9.1% | 6.6% | ▲2.4P | - | - |
| EBITDA*2 | | 236 | 210 | ▲26 | ▲11.2% | 18.9% |
| EBITDAマージン | | 13.5% | 11.2% | ▲2.3P | - | - |
| 経常利益 | | 201 | 140 | ▲61 | ▲30.5% | 20.2% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | 136 | 100 | ▲36 | ▲27.0% | 17.9% |
| EPS (円) | | 115.69 | 90.58 | ▲25.11 | ▲21.7% | 17.0% |
| ROE*1 | | 5.7% | 4.3% | ▲1.4P | - | - |
| 年間配当 (円) | | 50 | 50 | - | - | - |
| 為替レート (円) | USD | 135 | 135 | ▲0 | - | - |
| | EUR | 141 | 145 | +4 | - | - |

*1 2023年度の営業利益、営業利益率及びROEの目標値は、新規ののれん償却を除いて算出
 *2 EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

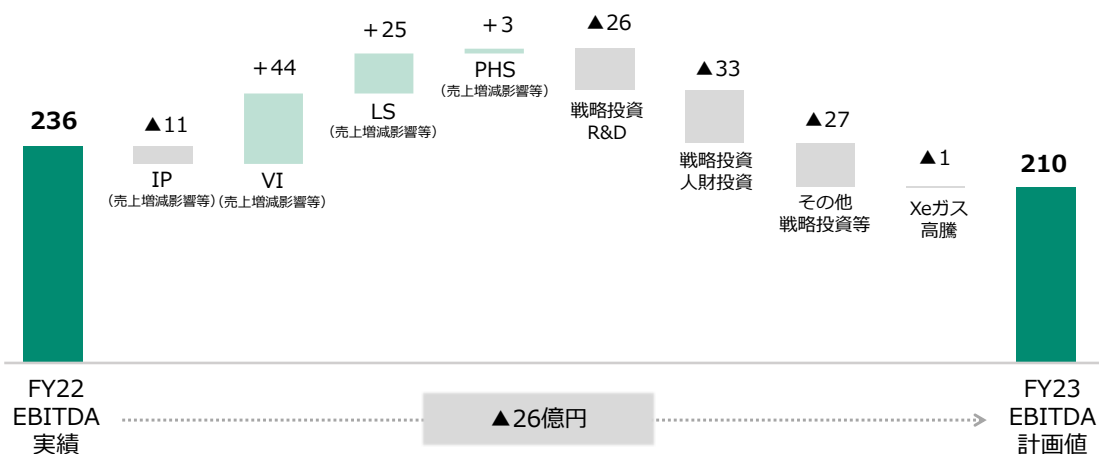
Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

こちらが、通期業績予想の係数となり、売上高、利益ともに第1四半期の進捗率が低くなっていますが、これは概ね計画通りの推移となります。
 詳しくは各セグメントページでご説明致します。

続いて、次のページで、EBITDAの前期からの26億円減益内容をステップチャートで示しています。

スライド15ページをご覧ください。

2023年度 通期業績予想：EBITDA増減分析（前年度比）



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

こちら5月の中期経営計画公表時から変更はなく、ビジュアルイメージングやライフサイエンス事業で収益を拡大させますが、中期経営計画の基本方針である将来に向けた仕込みの拡大に伴い、戦略投資を拡大していきます。その結果、26億円の減益を予定しています。

2023年度 通期業績予想：セグメント別業績

| 単位：億円 | | 2022年度 実績 (参考値*1) | 2023年度 予想*2 | 前期比 | |
|-----------------------|-------|----------------------|----------------|--------|--------|
| | | | | 増減額 | 増減率 |
| Industrial Process | 売上高 | 881 | 860 | ▲21 | ▲2.4% |
| | 営業利益 | 172 | 110 | ▲62 | ▲36.4% |
| | 営業利益率 | 19.6% | 12.8% | ▲6.8P | |
| Visual Imaging | 売上高 | 677 | 835 | +157 | +23.2% |
| | 営業利益 | 30 | 40 | +9 | +32.2% |
| | 営業利益率 | 4.5% | 4.8% | +0.3P | |
| Life Science | 売上高 | 46 | 45 | ▲1 | ▲3.3% |
| | 営業利益 | ▲49 | ▲20 | +29 | - |
| | 営業利益率 | ▲106.0% | ▲44.4% | +61.6P | |
| Photonics Solution | 売上高 | 101 | 105 | +3 | +3.7% |
| | 営業利益 | ▲2 | ▲10 | ▲7 | - |
| | 営業利益率 | ▲2.9% | ▲9.5% | ▲6.6P | |
| その他 | 売上高 | 43 | 35 | ▲8 | ▲19.4% |
| | 営業利益 | 7 | 5 | ▲2 | ▲34.8% |
| | 営業利益率 | 17.7% | 14.3% | ▲3.4P | |
| 連結合計 | 売上高 | 1,750 | 1,880 | +129 | +7.4% |
| | 営業利益 | 158 | 125 | ▲33 | ▲21.2% |
| | 営業利益率 | 9.1% | 6.6% | ▲2.4P | |

*1 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

*2 2023年度の営業利益は、新規ののれん償却を除いて算出

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 16

このページでは、各セグメントの通期業績予想を示しています。
各セグメントで、前回5月に公表したものから変更はございません。詳しくは、次
ページ以降でご説明致します。

2023年度 通期業績予想 : Industrial Process事業

| 単位 : 億円 | 2022年度 実績 (参考値*) | 2023年度 予想 | 前期比 | | 通期予想 に対する 1 Q進捗率 |
|---------|------------------------|--------------|-------|--------|------------------------|
| | | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | 881 | 860 | ▲21 | ▲2.4% | 20.3% |
| 営業利益 | 172 | 110 | ▲62 | ▲36.4% | 20.4% |
| 営業利益率 | 19.6% | 12.8% | ▲6.8P | — | — |

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

1 Q進捗率に対するコメント

- ・ 今期は、露光装置の売上が下期偏重
- ・ 半導体市況の低迷で、露光装置の期ズレリスクが高まるも、開発及び生産能力増強スケジュールの見直しや販促費の調整により利益計画値は維持する方針

■事業環境

全般的に不透明な景況感が継続

- 半導体市場は、最終製品の需要減速で稼働調整が継続し、回復は来期以降を見込む
- 最先端ICパッケージ基板市場は、中長期で需要拡大見込みに変わりはないものの、足元は投資計画後ろ倒しの傾向あり注視
- FPD市場は、巣ごもり需要一巡で稼働が低下し、その後は横ばいを見込む

■売上高 : 前期比 21億円減収

- 露光用ランプは、前期の市況好調の反動により減収を見込む
- 露光装置の販売は、今期は調整局面となり前期比で横ばいを見込む
- EUVマスク検査用光源は、稼働高水準が継続しメンテナンス収入は増加も、光源本体の販売減少により減収を見込む

■営業利益 : 前期比 62億円減益

- 将来の製品競争力強化に向けた戦略投資(R&D)拡大を見込む
- 露光用ランプの販売減少による利益率の悪化を見込む

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 17

インダストリアルプロセス事業ですが、今期は前期比で減収減益となる計画です。

第1四半期の進捗率は、20%に留まっていますが、露光装置の売上が下期に偏っていることから、計画通りの推移となっています。

なお、半導体の市況は低調に推移しており、この状況は、既に期初の段階から業績予想に織り込み済みではありますが、露光装置のお客様都合による検収後ろ倒しの傾向が更に強まる可能性があります。現時点で、今期の販売台数見込みに変更はないものの、今後の売上の期ズレリスクは高まっています。

ただし、仮に期ズレが生じた場合でも、それに合わせ開発投資や生産能力増強のスケジュールを見直し、また販促費を抑制するなどの対策をしっかりと講じることで、利益の期初計画値を維持する考えです。

2023年度 Industrial Process事業の主要製品

| 項目 | 最新の状況 | 売上高推移 |
|----------------------|---|-------|
| 最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置 | <ul style="list-style-type: none"> 最先端ICパッケージ基板市場は、中長期で成長も、足元は投資後ろ倒しの傾向あり、今後の市況の変化を注視 生産能力増強は、段階的に進めていくものの、市況の変化により当初計画よりスケジュールは後ろ倒し 次世代露光機へ開発投資継続（高生産性×微細化） | |
| ダイレクトイメージング露光装置 | <ul style="list-style-type: none"> IoT、5G等の進展に伴いパッケージ・プリント基板市場の成長は継続も、足元は最終製品の需要減速により調整局面 高解像力モデル(2 μm L/S)販売開始、2023年度より業績貢献 ターゲット：最先端ICパッケージ（Fan-out）、有機パッケージ基板市場等 | |
| EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源 | <ul style="list-style-type: none"> EUVマスク検査市場は、中長期で着実に成長し、高輝度APMI*の本格採用は、2025年以降となる見込み コスト低減ニーズの高まりにより競争環境が変化 TCO低減及び今後のHi-NA対応強化の戦略投資拡大及び新規顧客獲得への取り組み強化により、採用機会拡大を目指す | |

*APMI：Actinic Patterned Mask Defect Inspection（EUV光を使ったマスク欠陥検査装置）

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 18

インダストリアルプロセス事業の主要製品については、こちらのページで示した通りですが、売上高推移も含め、5月の中期経営計画でご説明した内容から大きな変化はございません。

ただし、先ほどご説明した通り、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置及びダイレクトイメージング露光装置において、投資の後ろ倒し傾向が更に強くなっていますので、今後の状況変化に注視していく必要があります。

EUVマスク検査用光源については、現時点で前回より変化はないものの、新規採用拡大に向けた取り組みを進めております。

2023年度 通期業績予想：Visual Imaging事業

| 単位：億円 | 2022年度 実績 (参考値*) | 2023年度 予想 | 前期比 | | 通期予想 に対する 1 Q進捗率 |
|-------|------------------------|--------------|-------|--------|------------------------|
| | | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | 677 | 835 | +157 | +23.2% | 21.1% |
| 営業利益 | 30 | 40 | +9 | +32.2% | 15.6% |
| 営業利益率 | 4.5% | 4.8% | +0.3P | - | - |

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

1 Q進捗率に対するコメント

- ・ シネマ及び一般映像ともに市況については想定通り推移
- ・ SCM改革及び部材不足解消は順調に進展、DCP販売は2 Q以降の本格回復を見込む
- ・ 部材不足の解消とともに、映像関連機器の部材コスト高騰の影響も低減し、下期の利益率改善を見込む

■事業環境

コロナから回復、部材不足も緩和へ

- シネマ市場は、DCPの置き換え需要が本格化、また中国で稼働回復
- 一般映像市場は、イベントやテーマパークなどの設備投資が堅調

■売上高：前期比 157億円増収

- SCM改革、部材不足緩和、映画館のプロジェクター置き換え需要の取り込みで、DCPの販売増加を見込む
- 一般映像機器は、ハイエンド機種種の販売強化による増加を見込む
- プロジェクター用ランプは、固体光源化の影響で販売減少を見込む

■営業利益：前期比 9億円増益

- 映像関連機器が増収増益も、ランプの利益率悪化(部材費増大)と販売減少による利益率の低下を見込む
- ソリューション体制構築に向けた戦略投資(人材投資等)の拡大を見込む

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 19

ビジュアルイメージング事業は、前期比で増収増益となる計画です。

シネマ及び一般映像分野の市況については、想定通りに推移しています。

第1四半期の進捗率が低いですが、これは前期の業績にも影響を与えた映像機器関連の部材不足が下期にかけて解消し、デジタルシネマプロジェクターの販売が、第2四半期以降に拡大することを見込んでおり、こちらも順調に推移しています。

また、SCM改革の進展、部材不足の解消に伴い、部材コスト高騰の影響が改善し、下期にかけて利益率は改善する見込みです。

2023年度 Visual Imaging事業の主要マーケット



| 項目 | 最新の状況 | プロジェクター売上高推移 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--|---|---------|-------|---------|---------|------|------|-----|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-----|------|------|-----|------|-----|------|-----|-----|------|-----|
| シネマ市場 | <ul style="list-style-type: none">シネマ市場は中国も回復し、概ねコロナ前の稼働率へ回復2023年以降のDCP置き換え需要拡大を見込む部材不足は2023年度後半に向け解消傾向2023年度のDCPの年間販売台数は前年比で約9割増を見込む | <p>(USドルベース)</p> <p>■ ランプ ■ RGBレーザー</p> <table><tr><th>年度</th><th>ランプ</th><th>RGBレーザー</th><th>見通し</th></tr><tr><td>FY20</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY21</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY22</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY23</td><td>Low</td><td>High</td><td>見通し</td></tr></table> | 年度 | ランプ | RGBレーザー | 見通し | FY20 | Low | Low | | FY21 | Low | Low | | FY22 | Low | Low | | FY23 | Low | High | 見通し | | | | | |
| 年度 | ランプ | RGBレーザー | 見通し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY20 | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY21 | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY22 | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY23 | Low | High | 見通し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般映像市場 | <ul style="list-style-type: none">イベントやテーマパークなどで複雑な大規模演出用途が拡大最先端の映像演出を求め、投資は拡大傾向新技術の取り入れなど付加価値重視の市場へ2023年度のプロジェクター年間販売台数は前年比で横ばいも、付加価値の高いRGB機種種の割合が増加 | <p>(USドルベース)</p> <p>■ ランプ 他 ■ レーザー ■ RGBレーザー</p> <table><tr><th>年度</th><th>ランプ 他</th><th>レーザー</th><th>RGBレーザー</th><th>見通し</th></tr><tr><td>FY20</td><td>Low</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY21</td><td>Low</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY22</td><td>Low</td><td>Low</td><td>Low</td><td></td></tr><tr><td>FY23</td><td>Low</td><td>Low</td><td>High</td><td>見通し</td></tr></table> | 年度 | ランプ 他 | レーザー | RGBレーザー | 見通し | FY20 | Low | Low | Low | | FY21 | Low | Low | Low | | FY22 | Low | Low | Low | | FY23 | Low | Low | High | 見通し |
| 年度 | ランプ 他 | レーザー | RGBレーザー | 見通し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY20 | Low | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY21 | Low | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY22 | Low | Low | Low | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| FY23 | Low | Low | High | 見通し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 20

ビジュアルイメージング事業の主要マーケットの状況について簡単にご説明致します。

シネマ分野は、中国市場の回復によりコロナ影響はほぼ解消。また、デジタルシネマプロジェクターの置き換え需要が本格化する見込みです。
SCM改革の進展、部材不足の解消により置き換え需要の最大限の刈り取りを図ることで、販売台数は前期比で9割増となる見込みです。

一般映像市場も、イベントやテーマパーク向けの大規模演出用途が堅調で、特にハイエンドのRGBレーザープロジェクターの販売が拡大する見込みです。

2023年度 通期業績予想 : Life Science事業 / Photonics Solution事業

Life Science事業

| 単位 : 億円 | 2022年度 実績 (参考値*) | 2023年度 予想 | 前期比 | | 通期予想 に対する 1 Q進捗率 |
|---------|------------------------|--------------|--------|-------|------------------------|
| | | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | 46 | 45 | ▲1 | ▲3.3% | 30.8% |
| 営業利益 | ▲49 | ▲20 | +29 | - | 22.7% |
| 営業利益率 | ▲106.0% | ▲44.4% | +61.6P | - | - |

1 Q進捗率に対するコメント

- 戦略投資、業績ともに計画通りに進捗

■事業環境

医療業界で光を使った機器需要が緩やかに伸長

■売上高 : 前期比 1億円減収

- 紫外線治療機器が販売増加も、環境衛生向け戦略変更により、微減を見込む

■営業利益 : 前期比 29億円増益

- 環境衛生向け販売投資の集中・抑制による増益と、前期の棚卸資産評価損が発生しないことによる増益を見込む

Photonics Solution事業

| 単位 : 億円 | 2022年度 実績 (参考値*) | 2023年度 予想 | 前期比 | | 通期予想 に対する 1 Q進捗率 |
|---------|------------------------|--------------|-------|-------|------------------------|
| | | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | 101 | 105 | +3 | +3.7% | 23.9% |
| 営業利益 | ▲2 | ▲10 | ▲7 | - | 32.4% |
| 営業利益率 | ▲2.9% | ▲9.5% | ▲6.6P | - | - |

1 Q進捗率に対するコメント

- R&D投資の戦略的拡大、業績ともに計画通りに推移

■事業環境

光源の固体光源化及びエネルギー効率向上の動きにより堅調に推移

■売上高 : 前期比 3億円増収

- メディカルヘルスや産業用センサー市場などでの販売増加を見込む

■営業利益 : 前期比 7億円減益

- フォトニクスアプリケーション向けR&D投資拡大を計画

* 各セグメントの2022年度の値は比較を目的に当社が作成した参考値

Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 21

ライフサイエンス事業は、前期比で減収増益となる計画ですが、期初計画通りに推移しています。

なお、今期は、前期より大幅な赤字縮小を見込んでいますが、これは前期の第2四半期に計上した棚卸資産評価損が今期は発生しないこと、及びCare222などの環境衛生向け製品で販売戦略を見直し、販売投資の集中と抑制を図ることで利益改善が進むことを見込んでいます。

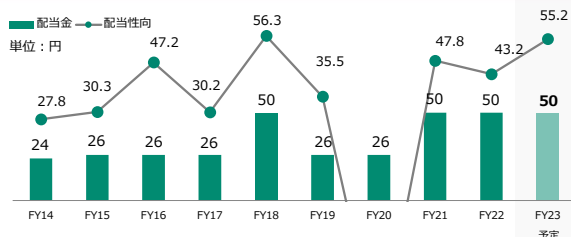
最後に、フォトニクスソリューション事業は、前期比で増収減益となる計画ですが、こちらもR&D投資を戦略的に拡大しており、計画通りに推移しています。

ここまでセグメント別通期業績予想についてご説明致しました。

1株当たり
期末配当額

【配当方針】

安定的な配当

2023年度は **50円／年** を継続

自社株買い

【自己株式取得の方針】

機動的に実施

なお、保有する自己株式は、発行済株式総数の5%を上限とし、発行済株式総数の5%を上回る部分については毎年消却を実施

2023年5月11日リリース

取得期間：2023年5月29日～2024年5月10日

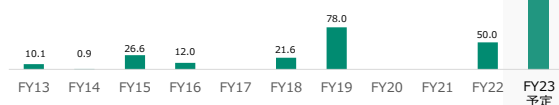
買付予定金額： **300億円（上限）**買付予定株数： **2,000万株（上限）**

自社株式取得は順調に進展

2023年7月31日時点の買い付け状況（累計）

買付金額 **70.8億円**、買付株数 **370.6万株**

単位：億円



Copyright © 2023 Ushio Inc., All Rights Reserved 22

最後に、株主還元についてご説明致します。

2023年度の1株当たりの配当額は、安定配当方針のもと計画通り50円配当を予定しています。

また、5月11日に公表した中期経営計画のなかで、抜本的な資本効率改善の一環として、総額300億円を上限とする自社株式の取得をリリースし買い付けを進めています。7月末時点で買付金額は70億円に達し、進捗率は約24%となり順調に買い付けが進んでいます。詳しくは、8月2日付けのリリースをご確認ください。

私からのご説明は以上となります。

I. 2023年度 1 Q業績概要

II. 2023年度 通期業績予想

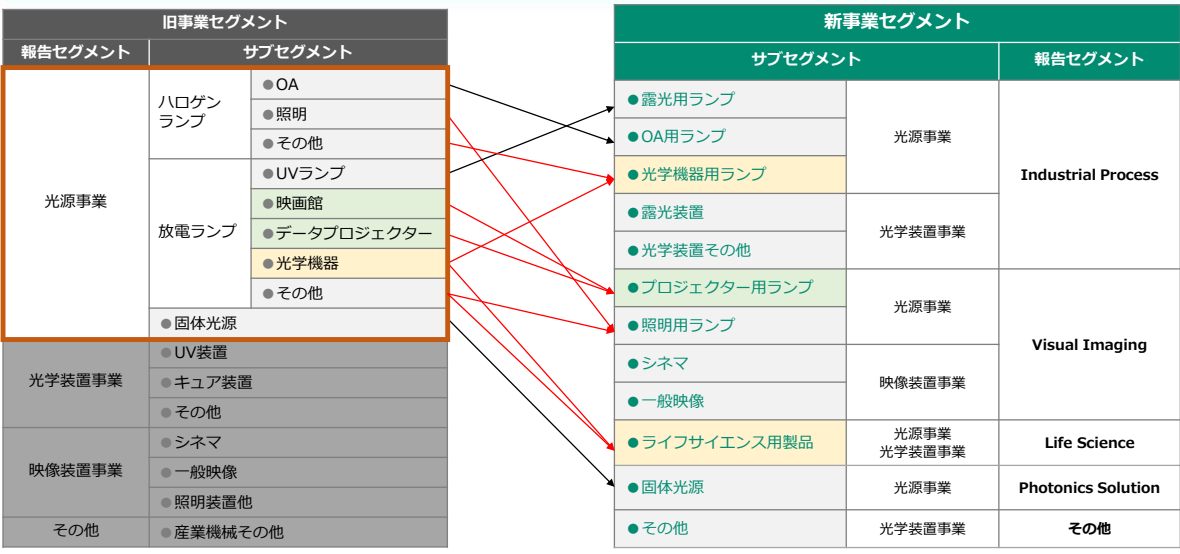
III. 参考資料

(新) 事業セグメントと主な製品

USHIO

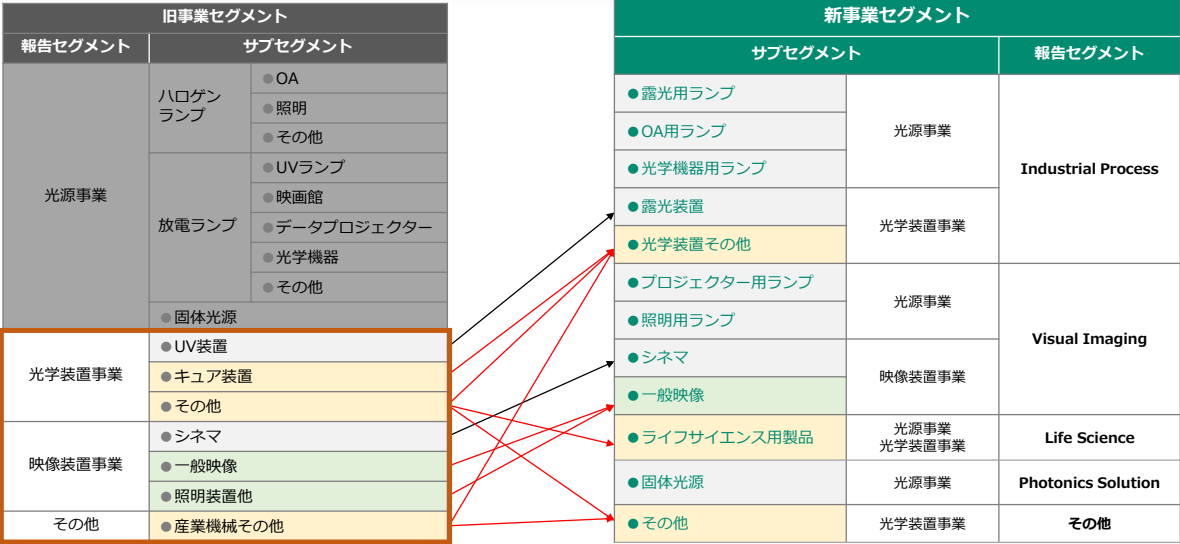
| 事業セグメント | 主要事業・製品 | 製品例 | | | | | |
|--------------------|--|---|---|---|---|---|---|
| Industrial Process | 光源： UVランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： UV装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他 |  UVランプ |  OA用ランプ |  投影露光装置 |  ダイレクト イメージング露光装置 |  (提供：TNO) EUVマスク検査用 EUV光源 | |
| Visual Imaging | 光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他 |  シネマ用 ランプ |  データ プロジェクター用 ランプ |  デジタルシネマ プロジェクター |  一般映像用 プロジェクター |  ディスプレイ LEDウォール |  映像周辺機器 |
| Life Science | 光源：「Care222®」搭載製品他 装置：紫外線治療機器他 |  抗ウイルス・除菌技術 「Care222®」搭載製品 |  紫外線治療器 「セラビームシリーズ」 | | | | |
| Photonics Solution | 光源：固体光源 |  固体光源（LD/LED） |  レーザーモジュール | | | | |

参考：セグメント区分変更（旧光源事業 → 新事業セグメント）



→ 1対1で紐づけできるもの → 分解又は集約が必要なもの

参考：セグメント区分変更（旧光学装置・映像装置・その他事業 → 新事業セグメント）



→ 1対1で紐づけできるもの → 分解又は集約が必要なもの





次世代半導体量産用EUV光源
開発/生産/販売



(提供: TNO)

光源販売
メンテナンス

マスク検査装置メーカー
研究開発機関

半導体デバイスメーカー等

EUVリソグラフィの技術開発進展に
よる次世代半導体の量産化ニーズ

検査、開発用光源のニーズ増大
ウシオのEUV光源が貢献

ウシオのEUV光源開発の歴史

2000年 EUV光源開発開始
2001年 EUVA*設立、参画
2013年 リソグラフィ用途から撤退
2016年 オランダ研究機関TNOへ
EUV光源納入
2018年 検査用（評価用）初号機納入
2019年 量産ライン用初号機納入、検収

*極端紫外線露光システム開発機構

■ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術
(コンパクト/高輝度/高出力)

マスク検査用EUV光源需要増加
メンテナンス機会の増加



最先端ICパッケージ基板向け
分割投影露光装置 (UX-5)
製造、販売

最先端・次世代パッケージ
需要拡大

装置
販売

パッケージ基板
メーカー

チップ実装
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（自社調べ）
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大

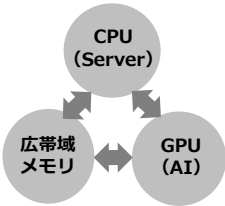
■ 世界シェア：90%*

* 最先端ICパッケージ基板市場
（ステッパ露光機市場）



■ ウシオの強み

1. 大面積一括投影露光
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度
→ 配線ピッチ微細化、プロセスマージン





ダイレクトイメージング 露光装置

開発・製造・販売

微細化対応

高生産性

■世界シェア：50%*

*ICパッケージ基板市場
(D1露光機市場)



アプリケーションの革新に対応した
プリント配線板需要の増加

装置
販売

プリント配線板 パッケージ基板 メーカー

高密度化

多層化

■ウシオの強み

高解像力(ハイエンド)
世界最速の高生産性(ミドルエンド)
+
顧客本位の保守サポート能力

基板
搭載

5G導入による
各種アプリケーションの革新と需要の増加

データセンター
基地局
需要増

スマートフォン
通信機器
需要増

車載
需要増

5Gサービス
世界各国で
開始・拡大

消費電力対応

小型化対応

■最先端半導体のFOパッケージ、有機パッケージ基板（先端BGA）などに向けた直描式露光装置を開発

リリース全文（2021年7月12日発表）：

<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1002/2021-2021/500818.html>



四半期推移《損益》



| 単位：億円 | 2022年度 | | | | 2023年度 | 前年同期比 | |
|----------------------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| | 1 Q | 2 Q | 3 Q | 4 Q | 1 Q | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 397 | 482 | 404 | 466 | 392 | ▲4 | ▲1.1% |
| 営業利益 | 44 | 56 | 34 | 23 | 20 | ▲24 | ▲54.1% |
| 営業利益率 | 11.3% | 11.7% | 8.5% | 5.0% | 5.2% | ▲6.0P | - |
| EBITDA* | 63 | 76 | 53 | 43 | 39 | ▲23 | ▲37.4% |
| EBITDAマージン | 15.9% | 15.8% | 13.2% | 9.4% | 10.1% | ▲5.8P | - |
| 経常利益 | 62 | 73 | 43 | 21 | 28 | ▲34 | ▲55.1% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 38 | 56 | 25 | 16 | 17 | ▲20 | ▲53.5% |
| EPS（円） | 32.18 | 47.87 | 21.80 | 13.78 | 15.36 | ▲16.82 | ▲52.3% |
| 為替レート（円） | USD | 126 | 137 | 144 | 133 | +10 | - |
| | EUR | 137 | 140 | 144 | 143 | +11 | - |

* EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却費

四半期推移《セグメント別損益》



| | | 2022年度 | 2023年度 | 前年同期比 | |
|--------------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | | 1 Q | 1 Q | 増減額 | 増減率 |
| Industrial Process | 売上高 | 198 | 174 | ▲23 | ▲12.1% |
| | 営業利益 | 39 | 22 | ▲16 | ▲42.9% |
| | 営業利益率 | 19.8% | 12.9% | ▲7.0P | - |
| Visual Imaging | 売上高 | 155 | 176 | +20 | +13.2% |
| | 営業利益 | 12 | 6 | ▲5 | ▲48.4% |
| | 営業利益率 | 7.8% | 3.5% | ▲4.2P | - |
| Life Science | 売上高 | 14 | 13 | ▲0 | ▲4.0% |
| | 営業利益 | ▲6 | ▲4 | +2 | - |
| | 営業利益率 | ▲47.5% | ▲32.7% | +14.7P | - |
| Photonics Solution | 売上高 | 23 | 25 | +1 | +6.6% |
| | 営業利益 | 1 | ▲3 | ▲4 | - |
| | 営業利益率 | 6.1% | ▲12.9% | ▲19.0P | - |
| その他 | 売上高 | 4 | 2 | ▲2 | ▲42.6% |
| | 営業利益 | ▲1 | ▲0 | +0 | - |
| | 営業利益率 | ▲26.5% | ▲22.9% | +3.6P | - |
| 連結合計 | 売上高 | 397 | 392 | ▲4 | ▲1.1% |
| | 営業利益 | 44 | 20 | ▲24 | ▲54.1% |
| | 営業利益率 | 11.3% | 5.2% | ▲6.0P | - |

2023～25年度の3年間： 自社株投資と成長投資への大規模な配分により資本効率の改善を目指す

キャッシュ創出

- 中計期間の営業CF：3カ年累計で600億円
- 資産売却：150～200億円
- 有利子負債活用：400+α億円 資本コストの引き下げ

キャピタル・アロケーション

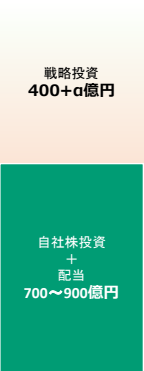
- 戦略投資：400+α億円 M&A含む成長投資：400+α億円
- 財務基盤 自己資本比率：60%以上を維持
- 自社株投資 + 配当：3カ年累計で700～900億円程度
 - ・ 安定的な配当
 - ・ 自社株投資は、資本効率や業績、資金状況を勘案し、積極的に実施（初年度300億円の自己株取得枠を決議）

ROE 8%以上（FY2025目標）を目指す

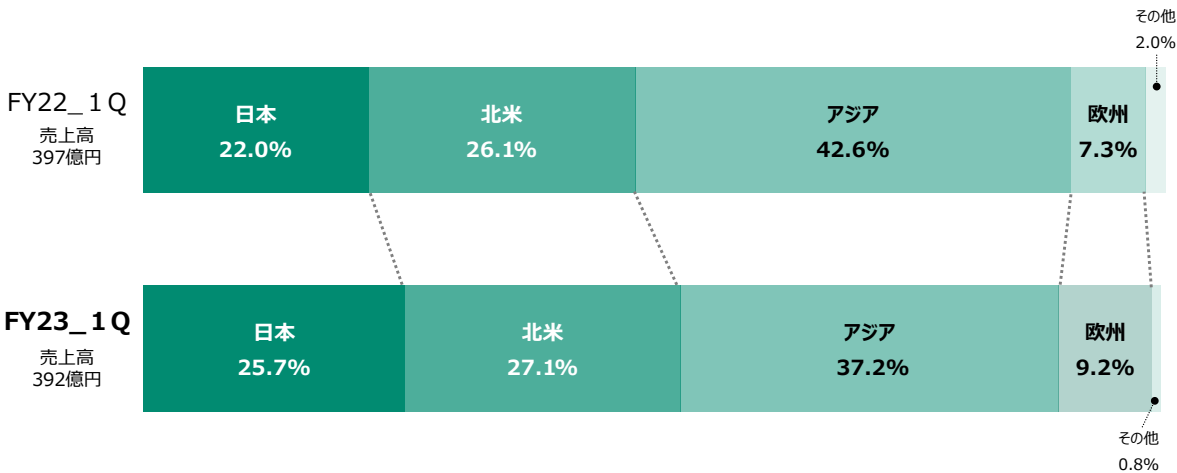
<Cash-in>



<Cash-out>

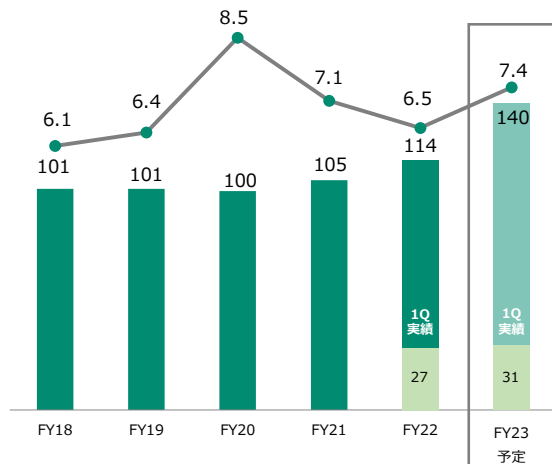


地域別売上高比率

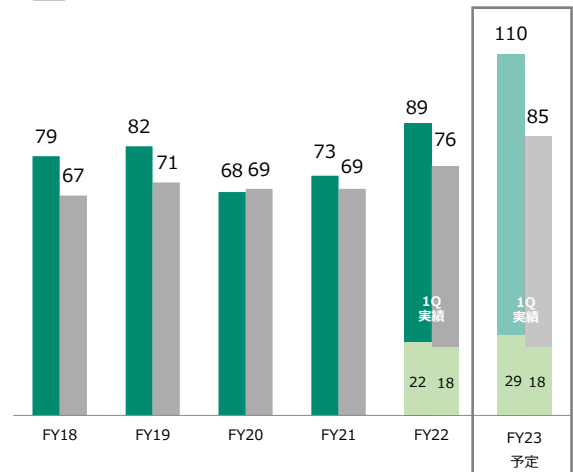


研究開発費／設備投資額・減価償却費

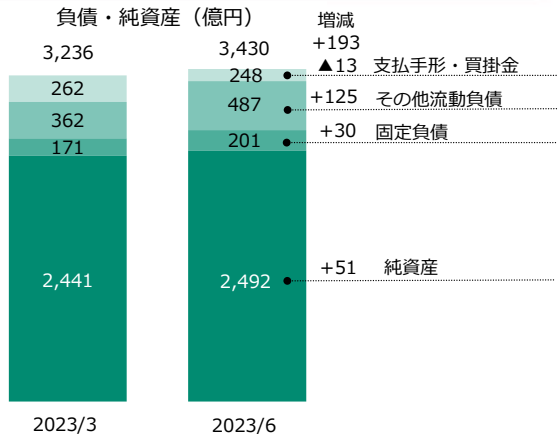
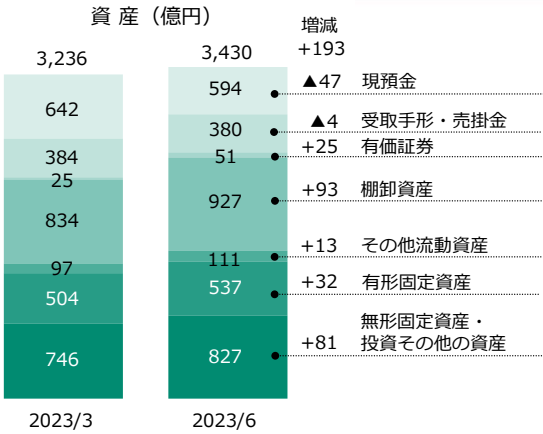
■ 研究開発費（億円）
 — 売上高研究開発費率（%）



■ 設備投資額（億円）
 ■ 減価償却費（億円）



貸借対照表



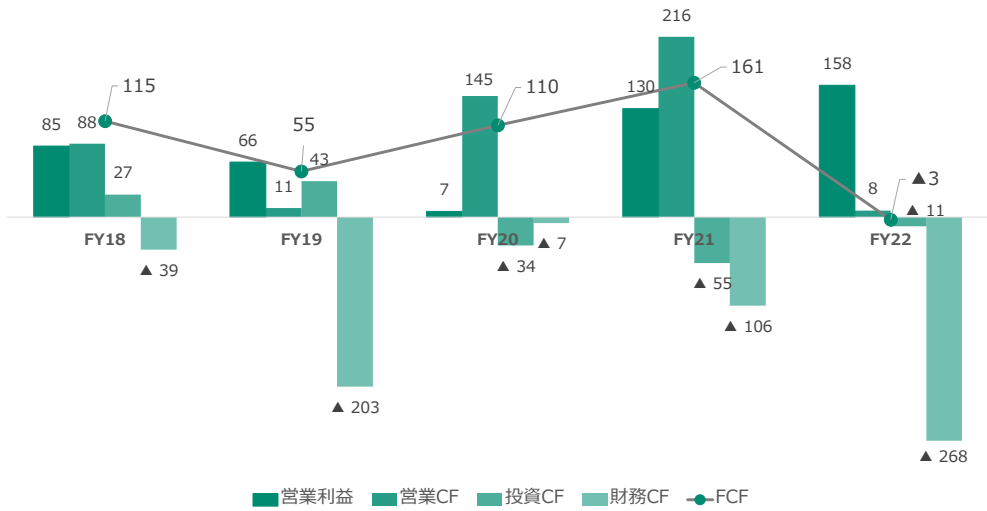
| | | |
|-----------|--------|--------|
| 回転月数 (ヶ月) | 2023/3 | 2023/6 |
| 売上債権 | 2.5 | 2.9 |
| たな卸資産 | 5.1 | 6.7 |
| CCC | 6.0 | 7.7 |

| | | |
|------------|--------|--------|
| 自己資本比率 (%) | 2023/3 | 2023/6 |
| | 75.4 | 72.7 |

キャッシュフロー推移

USHIO

単位：億円



| | | |
|------|---|---|
| AI | Artificial Intelligence | 人工知能 |
| APMI | Actinic Patterned Mask Defect Inspection | EUV光を使ったマスク欠陥検査装置 |
| BGA | Ball Grid Array | 半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板 |
| CoO | Cost of Ownership | 導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト |
| CPU | Central Processing Unite | 中央演算処理装置 |
| DCP | Digital Cinema Projector | デジタル・シネマ・プロジェクター |
| DI | Direct Imaging | マスクを使わず、直接描画する露光方式 |
| EUV | Extreme Ultraviolet Radiation | 極端紫外放射（極紫外放射） |
| FPD | Flat Panel Display | フラット・パネル・ディスプレイ |
| GPU | Graphic Processing Unit | 画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置 |
| IoT | Internet of Things | モノがインターネット経由で通信すること |
| OA | Office Automation | オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること |
| TNO | The Netherlands Organization of Applied Scientific Research | オランダ応用科学研究機構 |
| UV | Ultraviolet | 紫外線 |
| 5G | 5 th Generation | 第5世代移動通信システム |

IRサイトリニューアル及びIRメール配信サービス開始のお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Revised Point

01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設
シンプルでわかりやすさを意識した構成に
することで、利便性の向上を図りました。



Revised Point

02

コンテンツの刷新
当社のビジネスをより身近に感じて
いただけるコンテンツを刷新しました。



Revised Point

03

IRメール配信登録機能を追加
個人投資家の皆さまにも料ニュースを早く
お知らせできるよう機能を追加しました。



IRメール配信登録は
こちらから



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
ウシオ電機(株)
コーポレートコミュニケーション部 IR課
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>